



福井県

中学校長会の窓

発行 福井県中学校長会
 編集 福井県中学校長会広報部
 印刷 宮田 写植 印刷
 福井市春日1丁目7-4
 TEL (0776)35-3865

第 141 号
 令和3年2月15日発行

令和二年度

福井県中学校長会研修会

令和2年11月20日（金）県自治会館

会長挨拶



福井県中学校長会

会長 川上 晋

本日は、令和二年度 福井県中学校長会 研修会の開催にあたり、公務ご多用の中、

福井県教育委員会教育長

豊北 欽一様、

福井県教育庁学校教育監

清川 亨様

同じく

副部長

南谷 憲児様、

同じく義務教育課 課長

川崎 正人様

のご臨席を賜りましたことに、心より厚く御礼申し上げます。豊北教育長様には、後ほどご挨拶をよろしくお願いいたします。

本日は、本年度初めて、校長先生方が一堂に会する機会となりました。お忙しい中、県内各地よりご出席をいただきましたことに感謝申し上げます。さて、今年度は年度初めより、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が課題となり、校長先生方は、各校で感染症対策について、また、学校行事の変更について、保護者の方々への丁寧な説明を行い、ご決断されてこられたのだと推察いたします。

このような社会情勢の下ではありますが、教育の現状に目を向ける時、解決しなければならぬ喫緊の課題を看過することはできません。

まず、来年度から新しい学習指導要領に基づいたカリキュラム・マネジメントが求められます。将来、生徒が生きていくのは「情報が経済的な発展のための道具から、環境面や人の暮らしも含めた社会基盤を支える道具」になっていく社会（「サエティ」）です。その社会で、生徒が自己実現や幸福追求をするためには、その「資質・能力」の育成が必要不可欠です。各校、校内の研究体制の整備が大切となりますが、何より重要なのは、全教職員が実践に向けて高い意識を

共有することです。校長先生方には、校内環境を整え、地域との連携を活かした体制づくりをお願いいたします。

次に、学校における業務改善が挙げられます。これは、今までの働き方を見直すことで、教師自身が授業力を磨き、人間性や創造性を高めて生徒に向き合い、効果的な教育活動を行うことを目的としています。私たちが若い頃、先輩の先生方から学んだ「教育」の積み重ねは、福井県の高い教育力につながっています。そして今、私たちが取り巻く教育環境を、大きく変えていくことが求められています。今年一月に出された文科省告示を受けた県教育委員会規則に沿って、令和三年度末までの当面の目標に鑑み、時間外・在校等時間月八十時間の教職員を、来年度のスタートにはゼロにしていこう覚悟が必要です。今年の「新型コロナウイルス禍」は、教育界に大きな影響を及ぼしました。しかし、この逆境に對し、各校は総力をあげた対応で多くの成果を挙げています。今年の貴重な経験を生かし、福井の教育をさらなる高みへつなげるために、知恵と工夫を凝らし、業務改善に挑んでいきたいと思っております。

今年、この社会情勢に直面し、「安全・安心」な学びの場を保障する難しさを感じました。「新型コロナウイルス」で、一層浮き彫りになった課題、それは、保護者・生徒の多様な価値観への柔軟な対応やいじめ、LGBTQ等に係る人権問題、支援が必要な生徒への合理的な配慮、そして生徒の将来を考慮した適切なキャリア教育の推進等、多岐に渡っています。

これらは、学校全体で組織的に解決しなければならぬ課題です。校長先生方には、県教委をはじめ各市町教委・関係機関、並びに各中学校間の連携を密に図り、若手・中堅教員の育成を念頭に入れ、中・長期的、多面的な視点からの学校経営に、リーダーシップを発揮されることを期待いたします。

さて、本校の校舎からは、数年後に完成予定の、新幹線高架橋の工事現場が見えます。この事業が、今後の福井にもたらす恩恵は計り知れません。長期的な展望の下で、日々進められる事業を目の当たりにする時、「国家百年の計は教育にあり」の言葉が思い起こされます。これから、福井をはじめ世界の将来を担う人材を、福井県らしく「地道ながらも確固たる信念をもって育てること」、これが私たち校長の使命なのだと思います。

本日の研修では、西郷孝彦先生からご講演をいただきます。時代に即した学校経営についてご示唆をいただくとともに、私たちが抱く教育現場の既成概念を揺さぶっていただけのもので期待しております。本日の研修会が、「生徒の生きる力の育成」と「教職員を取り巻く教育環境の向上」を目指す校長先生方の、背中を押す機会となりますことを祈念して、開会の挨拶とさせていただきます。



教育長挨拶



福井県教育委員会

教育長 豊北欽一氏

今年は、新型コロナウイルス感染症拡大に備え、約三カ月間の臨時休業がありました。学習の遅れの取り戻し、校内の感染防止対策、生徒の心のケア等で大変なご苦労をされていることと察します。また、第三波のような感染拡大の状況も見られるので、感染対策の徹底をお願いしたいと思います。昨日現在でPCR検査を受けている生徒は四百七十人おります。教職員が八十一名おります。自分のところでこういうまたコロナが発生するかわかりませんが、注意をはらっていただきたいと思っております。

昨年十一月中学校長研修会で私から三点、お願いいたしました。一つは、教員がやりがいを持てる学校づくりを行ってほしいということ。二つ目は教員の働き方改革にリーダーシップを発揮してほしいということ。三つ目に風通しのよい職場づく

りと生徒に熱い学校づくりを進めてほしいということです。この三点は引き続きお願いしたいと思っております。

来年一人一台のタブレット端末が中学校に導入されます。先日、十八日ですが、知事と若手教員との意見交換が行われました。知事は、「タブレットを一人一台で教育が変わる。明治維新で若い人たちが礎をつくったように、急激な社会の変化には、若い先生方の力が大事である。」ということを発言しておりました。引き出す教育や学びを楽しむ教育にタブレットを生かした学びの転換を図っていただくと同時に、公務の効率化や保護者等への情報提供にもぜひ、生かしていただきたいと思っております。

来年度は知事や私も時間を見つけて積極的かつ有効にタブレットを活用する中学校を訪問したいと考えております。

教員採用選考試験については、一次選考免除や、小学校の実技廃止などによりまして、昨年よりも受験倍率が上昇しました。しかし、全国的に教員試験の志願倍率が低いことなどがあって、本県で不採用の教員が他県に採用され、講師の確保が難しくなっております。また、退職教員の再任用について、全国的な状況を見ますと、フルタイムでの再任が多い状況です。学校現場が回るように、退職員される教員の方がいましたら、ぜひ、フルタイムでの再任用勤務をお願いしてほしいと思っております。

今年六月、福井県高等学校教育問題協議会が、今後の県立高等学校の魅力化の方策について答申を行いました。この答申をぜひ、熟読していただきたいと思っております。入試結果や進

路志望調査を見ますと、近年普通科指向傾向が強くなってきております。大学卒の親が増え、わが子に大学までという思いで、とりあえず普通科を選択させているようですが、進路指導でその子にとって本当の幸せとは何かを考えてほしいと思っております。

十月十六日から高校生の就職活動が例年より一か月遅れで開始されました。高校生の求人、県内求人は、コロナ禍にあっても昨年より約二割減少しているものの、約三千五百人求人があります。一方就職を希望する高校生は、公私立合わせて約千五百人。ということは、約二千人の求人、経済界の期待に応えてない状況にあります。特に、大手企業からは、金の卵である職業系高校からの人材を強く求めていると聞いております。各県立高校では地域の中学校を中心に訪問し、教育内容や魅力を知っていただくよう、努力をしていると思っておりますが、ぜひ、中学校教員一人一人が、卒業生が進学している高校の教育内容や特徴を知っていただき、進路指導に生かしていただきたいと思っております。

今年十月経済同友会のご協力で高校教員と産業界との交流会の機会を持ち、経営者の講話をはじめ、企業見学や意見交換を行いました。来年中からは中堅教員研修に位置づけ、中学校の教員を対象に加えて実施したいと考えております。教員が地元の素晴らしい企業を生徒に語れることも重要であります。合わせて経営者等から学んだことを、学級運営等に生かすことも大事と考えているので、多くの中学校教員の参加を期待申し上げます。

教職員の働き方改革については、

市町の教育長と話をしておりますと、月八十時間以上の残業をしている教職員は特定しているといいますが、県教委としても今年度から調査や研究を大幅に見直しました。また、今回の臨時休校で卒業式、入学式、学祭など学校行事のあり方や予行練習などに関して、簡略化の意識が高まったと聞きます。福井県学校業務改善方針では、令和三年度までに時間外勤務八十時間以上の教員をゼロにするという目標を定め取り組んでいますが、中学校の取り組みが進んでいません。校長として毎月面接を實施して、月八十時間が過労死ラインだということを強く認識させ、業務の平準化や削減にリーダーシップを発揮してください。

来年の異動内示も今年同様、一週間ほど早くする予定ですので、時差出勤や部活動の複数顧問、校務分掌の持ち方を工夫してほしいと思っております。過労死させると校長に管理責任が問われ、損害賠償が請求される場合もあることをご承知おきください。

今月七日、県教組の主催で元大空小学校長の木村泰子さんと前廻町中学校長の工藤勇一さんの対談がオンラインで行われました。みなさんの中には見た方もいらつしやるでしょう。工藤さんが紹介した若者の国や社会に対する意識では、自分は責任ある社会の一員だと思ふか、あるいは自分で国や社会を変えられると思ふか、また、自分の国に解決したい社会課題があるかという問いに対し、

わが国の若者の意識が他の国に比べて極めて低い状況にあるとのことで、手をかけすぎた教育サービスが子どもに主体性や意欲を奪っているかという問いかけを行いました。

また、木村さんいわく、学力には見える学力と見えない学力がある。見えない学力とは人を大切にする力、自分の考えを持つ力、自分を表現する力、チャレンジする力であり、この四つの力がついているか、子どもを主語にすえて授業づくりが進められなければならないと語っていました。

本日、講師に西郷孝彦さんをお招きしました。西郷さんは、自分で考え行動できる人材の育成に向けた一方向策として、世田谷区桜丘中学校で全ての校則をなくし、服装も髪型も自由にしました。生徒手帳には礼儀を大切に、出会いを大切に、自分を大切に、その三つだけが書かれています。ルールがない中で指導は難しいと思われませんが、桜丘中学校ではこの三つの心得をもとに、教員、生徒間で話し合いが行われ、教員の指導力もおおいに鍛えられるとのことでもあります。知事から校則のない学校はできないのか、と言われ、NHKの番組や本で西郷さんの取り組みを知り、ぜひ福井に連れていってほしいと春頃から企画していました。清川学校教育監のお知り合いということもあって、快く引き受けてくださいました。今回の講演を聴いて参考になると思うところがあると思うので、学校現場で是非、生かしていただきたいと思っております。

開会にあたっての私からのごあいさつとさせていただきます。今日はよろしく申し上げます。



【演題】

「すべての子どもたちが
楽しく過ごせる学校づくり」

～自ら育つ環境を作ろう～



東京都世田谷区立桜丘中学校

前校長 西郷 孝彦 氏

1 好きなことを見つける

桜丘中学校の朝の様子ですが、僕が学校に着く8時にはもう廊下の机で勉強している子がいます。1時間目が始まると、勉強していた子たちは教室へ行きます。空いた机には、小学校の時に不登校や保健室登校であったり、あるいは、学校で衝動性があつて暴れてしまつたりするような子どもたちがやってくる。その子たちは、この廊下を狙っているんです。ここでお友だちができたり、ここで勉強したり。ここが1つのクラスというか、コミュニケーションになっているんです。

不登校問題が全国的に大きな問題になっています。発達障がいやそれが疑われる子たちは、対人関係がうまくつくれません。それから、行動にこだわりがあることが多い。そういう子を見ると、生気だとか、空気が読めないとか、ルールを守れないなどというふうに見えてしまいます。

当然、ルールが守れない、空気が読めないという先生や親から、「何やってるんだ」と必ず叱られます。叱られて、二次障がいだ不登校になります。大体このケースです。だから、もし不登校の子もがいたら、まずは発達障がいや独特の特性を疑っていいと思います。どのような配慮が必要か考えてもらって、学校に来られるようになればと思います。

いろいろな子がいますが、やりたいことを徹底的にやらせるといのが桜丘中の1番の教育方針です。桜丘中学校は、男の子も、女

の子もメイクしているんです。あの時、1年生が入ってきた時、メイクしたことないから、メイクの研究クラブをつくりたいと言ってきました。それで、「いいよ、何でもやらせてあげるよ」と許可したこともあります。

子どもたちがやりたいと思ったことを実現します。子どもだけではできないことがたくさんあります。ちょっと周囲の大人が手伝ってあげるとやりたいことができます。場所だとか、よく知っている人を紹介してあげたり、ほんのちよつと手伝ってあげたりするとできます。あんまり手伝うと過干渉になります。

好きなことを見つける手伝いをしましょうというのが桜丘中の方針です。ある子は野球部のマネージャーをやっている、マネージャーとして甲子園に行きたいという夢を持ち、実際、遠い都外の野球の強い学校に進学しました。ある子は、ダンスが大変好きで、ダンスの強い高校に行きました。好きなことがある子は、見ていてさわやかです。もうぶれず、そつちへ真つ直ぐ進んでいきます。だから、人間も好きなことがある人は強いです。

好きなことをさせてみるでも、飽きてしまうこともあります。でも、それを責めては駄目です。どんどんいろいろなことを、あれもこれもやってやっていると見ると、何と見てもいいです。だから、何かやりたいと言った時に、絶対否定しないでやらせてあげます。できないこともあるんだけど、何とか

やらせてあげます。不思議なことに好きなことをさせてあげると、もうその子は放っておいたつて勉強します。好きなことに必要な勉強だからです。もう自分でできるのです。それを見つけてあげるといいことです。

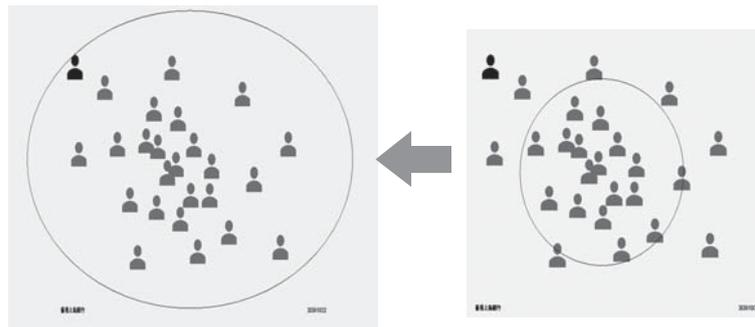
2 学校を変えるヒントを見つける方法(特に支援が必要な子どもに対応することで「学校改善」を図る)

皆さんの学校の生徒数と、その中の特別な支援が必要な生徒数を言ってください。生徒数はわかりますね。その中で特別な支援が必要な子どもの数を数えてください。あの子必要だよな、あの子もそうだよな、あの子は足が悪いから、エレベーターが必要だよな。大体10人ぐらいいますか?もつといえますか?

実は桜丘中は、全ての子どもたちに特別な配慮が必要だと考えています。でも実際は無理です。人員的にも、それから時間的にも。だからその中でも特に必要な子に、特別な配慮をしています。本当は全員にしなければいけないけど、それは無理だから選ばれた子にします。その子のための過ごしやすい環境、学校全体の環境やわかりやすい授業は、その他の全ての生徒にとつても過ごしやすいです。

この図はコンフォートゾーン。あの円に入れる子は学校が楽しいし、授業もよくわかります。でも外れてしまった子は、学校の勉強

がよく分かりません。なぜか生きづらく、困難ということ。こういうときに、1番困っている左上の子に注目するのです。あの子が学校でわかりやすい授業や、過ごしやすい環境をつくってあげようと、学校を改善するのです。



この子を、このコンフォートゾーンに入れようと、学校全体を改善すると、全員がコンフォートゾーンに入ってくる。何度も言っているのは、1番困っている1人の子に注目することです。その子が学校で楽しく過ごせるように、学校全体を改善していくのです。

3 子どもたちにつけてもらいたい力（非認知能力の育て方）

アメリカのある団体の調査によると、貧困家庭で、ご両親ともろくな教育を受けてない家庭なのにすく大成功して大金持ちになっただという子が結構いたそうです。それはいつたいなぜだろう、家庭の何が違うんだということ、その家庭を調べたら、「親が子どもの言うことを否定しない。子どもの話を聞いてあげる。子どもに共感する。アタッチメントなど、子どもとのふれあいを積極的に行う。能力ではなく努力をほめる。」という家庭でした。

非認知能力とは、紙のテストなどで測定できない「目に見えない力」のことを言います。好奇心や想像力、自己規律や忍耐力、社交性や明るさ、優しさや思いやり、不安を抑える力、自制心といった能力が将来的な経済成果を高めます。非認知能力は、教えることができます。伸びる環境をつくらばいいのです。

桜丘中の教員の実践を紹介しました。2年間研究をしました。前述した家庭のように「先生たちは、絶対に子どもの行動を強制してはいけない。子どもの言うことを否定してはいけない。」という約束をして、結果を見ました。1年生はそういう環境の中で、自分の思っていることを遠慮せずに発言するようになります。「勉強は必要ない。将来役に立たない。面白くない。めんどうくさい。」等々。でも、理科の実験はみんな好きだ

から「やりたい」と言います。

だから、役に立つ、立たないで授業を受けなさいというより、この子たちの好き嫌いを大切にす。子どもに「将来役に立つから、これ勉強しなさい」と言っただけで無理。やっぱり、好きな勉強はやりたいんです。

これを桜丘中では「巻き戻し」と呼んでいます。小学校の時は、先生の言うことを黙って聞いている子、授業中はきちんと座っている子が「いい子」です。何も考えずハイという子を元に戻すんです。「何をしてもいいよ」の中で、子どもたちを元の自分に、素の自分に戻します。初めは子どもたちは、みんな、文句を言うし、ワガママのようにも見えます。

そうすることによって自尊心がだとか、自己肯定感、それから、共感性だとかが身につきます。これが非認知能力の芽生えです。まとめると、

- ・子どもが言うことを否定しない。
- ・子どもの話を聞いてあげる。
- ・子どもに共感する。
- ・アタッチメントなど子どもとの触れ合いを積極的に行う。
- ・能力ではなく、努力をほめる。
- ・行動を強制しない。

4 「インクルーシブ教育」に必要なオペレーティング・システム

（すべての子どもが楽しく3年間（6年間）を過ごすこと）

○オペレーティング・システム
なんかつまらなそうな顔をして

いる子がいたら、その子を何とかしようと、みんなが「どうしたの？」と声をかけてくれたり、「一緒に遊ぼう」と誘ってくれたりする関係を桜丘中はめざしています。

それを実現するために、目の前の子どもたちを観察したり、意見を聞いたりすることを大切にしながら進めてきました。「全体を観察する」というよりも、1人の子を深く観察したほうがいいよ」と先生たちに言っています。部分は全体を含有しているという、数学のフラクタル理論です。

1人の生徒が困っていること、1人の生徒がうまくいかないことを見つければ、それは学校全体の課題なのです。

○クリティカル・シンキング

桜丘中に、授業中、教科書を開かず、ノートもとらずに小説を読んでいる生徒がいました。さあ、皆さん、あるいは皆さんの学校の先生だったらどうしますか。注意しますか。「教科書を開きなさい。ノートを取りなさい」と指導しますか。実はこの子、成績はオール5なんです。ほぼテストは100点。皆さんの学校の先生ならどうします。注意しにくいよね。「そんなことをやっている、勉強が遅れるよ」とも言えない。この子でも本を読めない授業があります。体育や実習、手を動かしている授業、それと考える授業です。

この子は、マルチタスクができる子です。だから、アクティブラーニングでない授業、説明だけの授

業は本を読んでいてもわかるのです。だから一方的に説明をしている授業のときは、本も読めます。先生たちは、この子がもし本を読んでいたなら、授業を変えなければいけないと思うことになりました。自分の授業は一方的説明だけに終わっているのだから。

なぜこの子は本を読んでいるのかと考える、それがクリティカル・シンキングです。必ずそういうふうに原点に戻って考えるのです。今までの「本は読んではいけない」という、禁止的指導的なものを捨てるのです。授業中、「寝ていてはいけません」と皆さんの頭の中に凝り固まっているものを捨てるのです。なんで寝るのだろう、なんで本を読むのか、いろいろなことを、元に戻って考えることが大切だと考えます。

○校則をなくす（ルールはできるだけ少なく）

意味のない校則をなくすことで、講演の冒頭で、みなさんに「寝ていいですよ」と言いました。桜丘中は授業中、寝ている生徒を起こしません。これは科学的に証明されている。どうしても眠いときは、10分、15分、寝た方がいいです。起きたときに頭がすっきりしています。だから放っておきま。自分の授業で寝られると嫌な人は寝られないような授業をするしかないのです。授業改善された、眠くならないような授業にしました。皆さんの学校でも寝ている子、起こしては駄目だよと言うと、授業改善につながります。

授業改善につながります。



みんなと同じでなければならぬという校則があると、いじめの原因になります。これはよくわかんと思えます。特性があり、校則を守れない生徒や発達障がいの子、変わった子は、みんなと違うから、そういう子をいじめます。

○校則をなくすが校内を治外法権にしない

校則はないけど、学校内を治外法権にしていません。桜丘中ではいじめとは言いません。例えば、いじめでばかにしたら侮辱罪です。それから相手を蹴ったり、殴ったりしたら暴行罪。人の物を取ったら窃盗罪。けがをさせたら傷害罪。だから体罰はないです。万引もない。万引は窃盗です。体罰は暴行か傷害。先生が体罰をしたら110番します。教育委員会には言いません。だって犯罪だから。

桜丘中は物を壊したら、生徒が全額弁償です。わざとであつても、

過失であっても。それは徹底して
いるから、心配なおうちは保険に
入っています。年間3,000円
ぐらいの対物保険です。物を壊し
たときはお金を払うということ
は、徹底した方がいいです。

○ICTの活用（タブレットの使 用許可）

識字障がいがあつて字を読むの
が非常に遅い、なかなか読めない、
でも耳から入るとすぐわかる子
は、小学校4年生のときに初めて
このタブレットの読み上げアプリ
を使いました。自分はこの文章を
読み上げてくれるアプリを使っ
て、僕ってばかじゃないとわかっ
たと言っていました。本が読めな
いから、自分はずつとばかだと思
っていたけど、タブレットを使
えば本がわかるようになったので
す。でも、学区域の中学校に行こ
うと思つたら、校長先生にタブ
レットは使えません、だめと言わ
れたらしく、仕方なく学区域外の
桜丘中へ来ました。

僕が春休みに、使い方を習って
きて、先生たちにも教えました。
この子が来たことよつてタブ
レットの活用がすごく進みまし
た。それで、「この子は使つていい」
ではなくて、全員使つていいよう
にした。やり方がわかつたから。
1人に注目して、学校全体に広げ
る手法。そうしたらあと2人、同
じ障がいをもっている子が見つかり
ました。1人はタブレットを使
えたのだけど、言いにくくて言え
ず、もう1人は知らなかつたとい
うことでした。学校全体に広げ

ことよつて、この子のためにあ
と2人の生徒が救われました。1
人の困つた子がタブレットを使
つていいなら、全員使つていいよと、
学校全体に広げることがコツデ
す。

○学力の証明をする

校則がないとか、インクルーシ
ブ教育をやつているとか言つてい
て、勉強ができないと必ず総攻撃
を食らいます。僕は、別に学力が
どうのと言うのは、あまり好きで
はないのです。でもやっぱり学校
を継続させるためには、ある程度
学力を証明しておかないと文句を
言われるのです。ほらみると言わ
れるので、取り組んだのはこの3
つです。ユニバーサルデザインの
授業環境、定期テストの廃止、宿
題を出さない。この3つだけです。
あまり授業改善とかはしません。

①ユニバーサルデザインの授業環境

例えば左側の教室（モニター画
面画像）。黒板の周りにベタベタ、
必要のないものが貼つてありま
す。これはADHDの子とかは気
が散つてしょうがないのです。ひ
どい小学校は児童の写真かなんか
が貼つてあります。それでは授業
中、もう集中できないです。で、
こういうふう（掲示物がなく教室
前面）にした。これ以外にたくさ
んあるUDの1つの例。僕は最初、
こんなのはうそだと思ひました。
こんなもので集中力が高まるなら
世話ないよと。でも半信半疑でし
たが、研究校を受け実際にこのよ
うな環境を作つてみました。効果

は絶大で生徒たちが本当に落ち着
きました。なんかザワザワしてい
るクラスがあつたらやつてみてく
ださい。やつて初めて本当なのだ
と驚きますから。

②定期テストの廃止

定期テストはありませんが、積
み重ねテストというテストはあり
ます。要は100点満点のテスト範囲
を小さく分けたテストです。10点
満点に分けてもいいですし、20点
満点、5つに分ける教科もありま
す。積み重ねテストで良い点が取
れなかつた生徒は、希望すれば
チャレンジテストが受けられま
す。同じ範囲を2回できます。大
体の子は満点はとれないのでチャ
レンジテストも受けたくなりま
す。つまり同じ範囲の勉強を2回
やつていふことになるのです。単
純に勉強時間が倍になります。学
力が上がるのは当然です。生徒も
教員もみんな頑張つています。

③宿題を出さない

いろいろな理由があります。適
正な宿題を出せば、学力は上がり
ます。でも同じ宿題を全員に出し
てもだめ。工夫してください。工
夫によつては、宿題を出した方が
いいときがあります。ただ漫然と
出している意味がないです。都
立の難しい高校は、難しい問題が
出ます。それは学校の授業を聞い
ていても解けません。ある年度の
都立N高校の数学の問題は、数学
の先生でも解けませんでした。
やつぱり塾に行つて、特別な勉強
をしないと都立高校であつてもH

高校とかは受かりません。だから
そういうところの塾に行つてい
る子の邪魔をしないために、余計な
宿題は出しません。必要な子は放
課後、特別に勉強を教えたりして
いますが、一律に宿題は出さない
ということをしました。

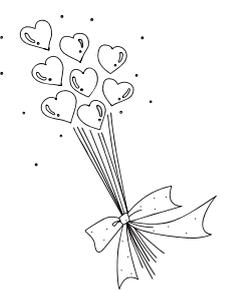
5まとめ（ある卒業生へのイン タビューから）

卒業生…「自由とは信じてること
だと思ひます。お互いの信頼関係
があつてこそ成り立つものだと思
ひます。この学校は、先生たちも
優しく、話しやすい空気がある
ので、簡単にコミュニケーション
をとれて、そこからの信頼関係で
自由が生まれているのかなと思ひ
ます。

自由だからこそ、自分たちで考
えて、責任もつて行動しなければ
いけないということ、すごく自
分で考えて行動するということを
学びました。のびのび生活できる
なと思つていて、髪も染めてはい
けないとかないし、メイクもして
いいし、自分の個性を出せるなど。
服装とかも私服でいいよと言われ
ているので、じゃあ私服がダサ
かつたらどうしよう、周りはメイ
クしているけど自分は興味ないか
らどうしよう、みんなと合わせ
なければいけないと思つている自
分がいたので、私服がダサ
くても、メイクに興味なくなつても、
それが自分の個性なのだからいい
のではないか、ということがわか
つたのは、この自由な校風だつ
たから。自分は違つていていいの
だという、自分に自信がもてるよ



うになつたかなと思ひます。」
こうやつて生徒たちは卒業して
いきます。先生たちも安心してい
ます。3年になつたらこうやつて
卒業していくと知つているので、
1年生の「巻き戻し」を待てませ
ず、なかなか待つのは大変なので



校長三昧



自分をつくっているもの

明倫中学校長 川上 晋



相変わらず
慌ただしく過
ぎる毎日です
が、校長室の窓
越しに空を見

上げ「よくここまで来たな」と思
うことがあります。社会科の先生
方との出会いは、専門性追究の楽
しさを知る始まりでした。また、
野球を通して知り合った仲間と
の交流は、人の奥深さに触れる機
会となりました。いずれが欠けて
も、今の自分はありません。若い
頃は、怖いもの知らずで行動し、
無茶な指導も平気で行っていま
した。今思えば「組織的」・「共通
理解」が重要視される学校現場
で、当時はきっちり、自力はつけ
ていたと思っています。もともと力
をつけたいこの思いは、自分を随
分苦しめ、納得するまで行動さ
せ、文字通り、後悔することの繰
り返しでした。その積み重ねが、

すべて自分の「人となり」を形成
しています。先日教え子に、「先
生、退職するんか？」と聞かれ、い
よいよその実感が湧いてきまし
た。今は、これからどうやって
日々を送っていくかを、楽しんで
考えています。最後に残るのは、
やはり飾り気のない「人とな
り」なのだと感じています。自分
を支えていただいた方々に、感謝
の気持ちが絶えません。

貴重な日常

安居中学校長 牧田 秀昭



朝、校門付近
で生徒を迎え
る。毎朝、時刻
も場所も同じ
である。安居の

空が広いこともあつて太陽の軌
道の変化がよく分かる。始業前
には教頭と教務主任とで簡単な打
ち合せ。続いて文書やメールの
チェック。その対応ですぐ時間が
経つ。「今日は珍しく電話が鳴ら
ないな」と思っていると必ず鳴る
ので面白い。私からも電話やメー
ルを数件することになる。研究主
任が次の研究会の持ち方につい
て相談に来た。生徒が直訴に来る
こともある。こんなことでずぐに
時間が経つ。
体が空けば授業を見て歩く。生
徒が活躍している教室では足が
止まる。これはと思つたら、八十
号を超えた校長通信に記録や私
見を書いて職員と共有する。私か

ら生徒へのメッセージを記し生
徒からの声を拾うホワイトボー
ド「校長室より」は二十回を超え
ている。落書きのようだが、結構
面白い。そして一日に1〜2時間
は、校長室の扉を締め切つて、原
稿を書いたり思索にふけつたり
する。これはずっと続けている私
の大切な時間。
こんな貴重な日常もあとわず
かで終わる。

人生いろいろ！

大安寺中学校長 葉島 弘行



私の教員人
生は、中学校に
始まり、中学校
の校長（併設）
で終えようと

していますが、ほとんどが小学校
での勤務でした。
新任校は藤島中学校でしたが、
病休代として高須城小学校で三
か月勤務した後、和田・松本・社
南小学校と大規模の小学校で勤
務しました。
和田小学校では体育研究部の
会議資料が間に合わず、勉強そつ
ちのけで子どもたちに手伝つて
もらったことは今でも記憶に
残っています。その時の教え子が
クラス会で「あのときのクラス
は、毎日運動会をしているようで
楽しかった。」との言葉にみんな
で大爆笑。小学校教師でよかつた
と改めて思いました。
四十代後半からはへき地複式

校で勤務が続き、ほとんどの校務
分掌を経験してきました。最後の
二年間には、地区中体連の女子バ
ド競技部長までさせていただけ
ました。後悔のない教員人生では
ありませんが、一つ残念なことは、
部活動の顧問を経験できなかった
ことです。
まもなく退職を迎えますが、も
し病休代がなく藤島中で勤務し
ていたなら、今とは違った教員人
生だったかも。人生いろいろだ
なあと感じています。

私の中の教育の原点

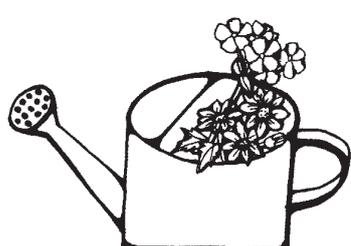
藤島中学校長 高柳 浩樹



退職しよう
とする今でも
忘れられない
「私の中の教育
の原点」が、新

採用一年目にあつた。
それは、体育の授業での衝撃的
な出来事である。私が三年生の女
子を担当していた時、ある生徒が
どんなに指導をしようが、真夏で
あるのが、長袖の上下体操服で授
業に参加してきた。その当時のな
で、かなり厳しく指導をしたのだ
が、生徒もなかなか頑固で絶対に
半袖になることはなかった。卒業
間際に一年間の授業の感想を書
かせたところ、その生徒は次のよ
うに書いてきた。「先生、一年間あ
りがとうございました。私は小学
校の時から先生たちに不良扱い
されていて、授業でも無視されて

きました。それなのに、先生が最
後まで他のみんなと同じように
叱ってくれたことが本当に嬉し
かったです。」と。思春期の生徒つ
て、あれだけ反抗していて、私を
気に入っていたつてこと？と、頭
の中が一日中グルグルだった。
中学生は難しい年頃であるこ
とを身をもって体験できた出来
事で、私の中の教育の原点になつ
ている。



回想（この一年）

大東中学校長 湯口 和弘



学校に戻つ
て職員室に入
ると、教職員が
一斉にこちら
を見る。「どう

したの？」「安倍首相が全国一斉
に臨時休業すると言っています」
「どうなるんですか？」「わかるわ

けないだろう」実際わからないことばかり。先の見通しは立たず、変更ばかりだった。唯一の救いは、学校だよりをやめるため、学校プログラムの開設準備をしていたことだった。さっそくアドレスを保護者に知らせ、一人でも多くの人に読んでもらうよう、ひたすら記事を書いた。

今思えば、感染者は多くなく、修学旅行も夏の大会も実施できたにちがいない。ただ、コロナ禍も悪いことばかりではない。何より学校の常識を打ち砕いてくれた。とりわけ卒業式。例年なら五時間は歌を練習していたが、当日は一切なく、式の指導も生徒指導部長が流れを説明する十五分間だけ。でも短くてとてもいい卒業式だった。その後は、壮大な社会実験を繰り返しているようなもので、刺激的な毎日だった。

回想

森田中学校長 柿原 大祐



振り返れば、二十〜三十代は担任、教科指導、部活動などに没頭し、生徒

指導上の問題にも体当たりで臨んでいた。四十代は主任として学校の中核としての経験もさせていただいた。教諭時代は初任校か

ら中学校勤務を続けられ、思春期の生徒との生活を思う存分満喫することができた。

管理職となったとき、教育長から「初心忘るべからず」の言葉を賜った。教頭としての初任校は小学校勤務となり、初めての小学生との授業に戸惑い、試行錯誤の日であった。校長での初任校では、小学校長と中学校長・幼稚園長を兼務し、語彙の少ない三歳児から成長した十五歳までを対象に、校種毎の集会を開き月三回の講話を行った。もともと話が得意ではない私だけに、毎回具体物を用意して「目と耳で聴く話」を心がけ、三校種を三倍楽しむつもりで臨んだものである。幼小中の発達段階を初めて肌で感じる機会を与えていただき、最後の中学校でも生かすことができた。

初代校長からのバトン

社中学校長 岩本 明裕



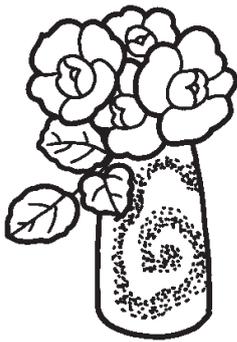
本校教職員が毎年更新し共通理解を図る「社のきまり」には、初代

校長名で「生徒指導の具体策」として、校内体制の改善、授業づくり、地域との連携などが記されて

います。本校の基盤である生徒指導の充実が、開校三十五年の現在まで受け継がれており、初代校長の当時の熱い思いも感じることができま

す。昨秋、初代校長の谷口穎意先生は高齢者叙勲を受章され、私が、賞状や勲章をご自宅までお届けしました。普段は車椅子生活の先生ですが、この日は正装した姿で立って私を迎えてくださり、その威厳あるお姿に圧倒されてしまいました。先生は、今でも本校への強い思いをお持ちで「私からのバトンがしっかりと渡ってほしい」の言葉には大変恐縮してしまいました。

初代校長からの「バトン」、この四年間、この重いバトンを持った私の走りは成果をあげたのだろうか、そして、次の校長にバトンを上手に渡せることができるのだろうか、などと考えている今、既にバトンゾーンにさしかかっています。



イキルチカラ

松岡中学校長 大西 泰弘



これまで経験したことはない新型コロナウイルスナウイルス感

染拡大。教員生活最後の年にその防止をふまえた学校運営を余儀なくされた。

二月の突然の休校から三か月。この間、教委からの指示や校長会で決めたことが一瞬のうちにひっくり返るといふことがたびたびあり、頭を悩ませた。生徒たちの命を守ることの重大さ。学校の最大の役割である、学びの保障をどうするか。課題はとてつもなく大きかった。自分だけの力ではとうてい解決などできる問題ではなかったが、校長会の仲間と情報を共有し対応できたことや、校内では自作教材の作成と配信、家庭との連携の確立。学校再開では、感染防止対策のよりよいものを創り上げてきた先生方。全教職員が一致団結して様々な未知の課題へ生徒と共に挑戦し、解決策を生み出してきたことに心から感謝している。

生徒、先生、保護者の皆さんとの強い絆は、私の今後の人生の大きな財産であり、イキルチカラである。

「礼の心」を実践してきて

上志比中学校長 藤田 幸一



新採用で赴任した勝山南部中学校への出張がありました。当時と比

べ、学校の周囲の道こそ変わっています。校舎・体育館、学校の前に建つ雇用促進住宅(三年余り住んでいました)は、その頃と同じで、「ここが自分の原点だ」と、懐かしさがこみ上げてきました。

それから五校での勤務、その中で多くの児童生徒や先生方との出会い、また保護者や地域の方々のお世話になりました。そして家族からの支えもあり、三十八年の教員生活を無事に終えられることをうれしく思います。

さて、上志比中学校は、「礼の心」を教育の柱としています。「感謝の心、人へ、ものへ、生きていくことへ」がその一つにあり、学校への感謝「校門での礼」からはじまり、「いのちをいたたくことへの感謝」、無言で給食をいただき、また、心を込めての無言清掃、日々の実践の中で心を育てます。

今の心境は、この「感謝の心」です。「人へ、ものへ、生きていくことへ」、何より感謝の気持ちを通して上げたいと思います。これからの人生、この心を忘れず、精進に努めます。

ターニングポイント

開成中学校長 山川 龍一



「卒業や進学、就職、結婚、我が子の誕生など、人生の節目で思うこと

は、人生とは面白いものだとということ。」

結婚式で祝辞を求められると、必ずこう述べることにしている。自分自身の結婚式でも、同じような挨拶をした。

教員人生でも節目はある。採用、担任学級の卒業、異動、昇任などなど。それぞれの節目で、人生の面白さを味わってきた。

その中でも、ターニングポイントと言える最大の節目がある。私にとつては、ボゴタ日本人学校への在外派遣である。自分の常識をひっくり返され、物の見方を完全に転換させられた三年間だった。私のスクールプランの中心に据えた「違いを認め尊重する学校」は、世界で最も混血が進み、きょうだいで肌の色が異なることが日常的である国、コロンビアでの経験に基づいている。いつか再訪し、自分を変えたあの時の経験を確かめたい。

まもなく退職という節目を迎える。これまで味わったことのない面白さを期待しながら…。

初心忘るべからず

勝山南部中学校長 伊藤 浩行



新採用は敦賀の小学校でした。この三年間が私の教員人生の礎にな

りました。毎朝、七時頃の路線バスにいつも同じ学校の先輩と乗り、通勤しました。学校までの約十五分の会話でいろいろな話を聞いてもらいました。「昨日はこんなことがあったのです。」とか「自分はこう思うのですが。」と子どもの様子から教育論まではたまたまおかしな四方山話も。先輩は、絶対に否定はしませんでした。しっかりと聞いてから「自分はこう思う。」と。毎日話すことで教師としての物の見方・考え方の基礎ができてきたのだと思います。そして、よく飲みに連れて行ってもらいました。そこでも偉そうなことを言つて失敗ばかりしていました。その度に温かい目で励ましてくださいました。さらに校内では、青年部員が数多くいて自主的に研究授業をして議論を重ねました。私は多くの先輩達や同僚、保護者の皆様や地域の方々、そして子ども達に鍛えられ、育てられたのだと思います。何とかここまで勤められたことに感謝したいです。ありがとうございました。

LOVE CHUBU

勝山中部中学校長 山口 政則



教員生活三十八年間のうち、中部中には二十一年間勤めさせていた

だきました。そこで校長として定年をむかえることができ、大変嬉しく思っています。さらに、本校の教育目標を「自分を愛し、他人を愛し、故郷を愛する」としていましたが、実は中部中で教諭だった頃から考えていたことで、それが実践できたことも幸運でした。「自分を愛する」ということは、自分をみつめ、自分を知ることです。また、「他人を愛する」ということは、相手の身になって考え、相手の感情にいたわりを示すことです。そして、「故郷を愛する」ということは、自分の周囲の環境に関心を持つことです。こうして、自分が周りから愛されていると感じたら、幸せになり感謝の心を抱きます(今、まさに自分がそう感じています)。自分が周りに愛情を示すと、周りの人も幸せを感じ感謝します。そして、愛は広がっていくのです。これからも中部中全体が、そうした愛でいっぱいになっていくことを期待しています。

新たな挑戦

芦原中学校長 松野 信一



初任校は若狭地区の小学校、風光明媚がびつたりくる地域であり、子

どもは素直で保護者も温かく教師を育ててくれていた。遠足ともなれば、保護者から松茸ご飯の弁当が差し入れられた。研究指定によりCAIに取り組むこととなり、給料よりも高いパソコンを買い、下位行動目標なる言葉に格闘しながら教材開発に取り組んだ。地域のクラブに入り、バドミントンにも取り組んだ。この時の経験が後の教員生活の基礎になった。

芦原町に転任となり、新たに力新一に取り組むことになった。子どもたちを指導したり、市役所の職員とともに日本選手権に出場したり、町内で行われる大規模な大会を作り上げたりして、教員としての幅が広がった。

五十歳を前にして一念発起、フルマラソンに挑戦した。以来、隙間時間を活用して練習し、完走九回を数えることになった。やればできる、挑戦することに遅すぎることはないことを証明することができた。

新たな生活が始まる。どんな挑戦をしようか、楽しみである。

ご縁

金津中学校長 早見 敏幸



教員生活を振り返ると「ご縁」という言葉を強く感じます。本

校勤務が二度目ということもその一つです。一度目は初任地からの異動でした。当時は二十代後半で、担任や部活動顧問、生徒指導担当として日々熱く過ごしていました。八年後、金津町役場の派遣スポーツ主事への異動でした。ここでは、生徒の保護者が多数勤めておられ、何かと助けてもらい、慣れない行政の仕事を行えることができました。

そして、月日は流れ、校長として金津中学校の勤務となりました。当時の中学生は生徒の保護者となっており、地域社会やPTA活動で活躍する姿をたくさん見ることができました。長い時間をかけて、人が成長する姿をたくさん見せていた、たくさん見せていただくことができました。私、この他にも不思議なご縁をたくさん感じています。これからも、ご縁を大切に生きていきたいです。

教員生活を振り返って

丸岡南中学校長 柳原潤一郎



敦賀市立粟野小学校に採用されて五、六年を担任し、卒業させた子ども

もたちと共に粟野中学校に入学（異動）して、さらに卒業までの三年間を担任しました。少年期から青年期にさしかかる彼らの成長の軌跡を見守った経験が、教師としての礎となりました。どちらの学校も、優れた実践で子どもを伸ばしていく先輩方ばかりで、困難な状況でも前向きに解決していく様子を間近に見て学びました。

その後三十二年間は坂井地区で勤務しましたが、ここでも常に良き先輩や同僚に恵まれ、苦業を共にしながら教師としての喜びを存分に味わうことができました。特に丸岡中学校のマンモス化解消にむけた新中学校建設計画や、開校した丸岡南中学校の運営に携われた経験が教師としての立ち位置を確固たるものにしてくれました。行政や地域・保護者のみならず、建築家、研究者等多方面の方々と交流する中で学校の存在意義を見直すことが出来ました。

開校当時、生徒とともに考えた校歌は「ありがとう」の言葉で締めくくられています。これまでかわってくださった全ての皆様

に感謝いたします。ありがとうございました。

出会いに感謝

坂井中学校長 東川宏嗣



最初に赴任した春江中学校で九百名余りの全校生徒を前にした時

の身が引き締まったことを今も忘れられません。

振り返れば、坂井地区の小中学校で二十七年、行政が十一年、その間に管理職が八年と、新採用の頃には全く想像のできない教職人生となりました。まだまだやりたいこと、やらねばならぬことがあるような感覚の中、まもなく三十八年間の教職人生を終わろうとしています。

これまでの歩みは決して平坦な道ばかりではありませんでしたが、大小の試練も嵐も教職人生をたくましく生きるかけがえのない財産になりました。新しい出会いとよき思い出を重ねることで次への希望を持ち続けることができましたように思います。

改めて、生徒たち、先生方、保護者や地域の方々等、これまで多くの出会いがあつて今日の自分があることに感謝です。



感謝

朝日中学校長 近藤博徳



昭和五十八年四月、勝山市鹿谷小学校に赴任してスタートした三

十八年間の教職人生が終わろうとしています。母校を最後の職場として、退職のときを迎えられることに感謝の気持ちでいっぱいです。

中学生のときから、「将来は中学校の先生になり、部活動の指導をがんばりたい。」という夢を持っていたので、中学校に赴任した時の嬉しさは言葉では言い表せないものでした。たくさん子どもたちと出会い、担任として、部活動顧問として、ともに汗と涙を流した日々はかけがえのない大切な宝物です。楽しかったこともたくさんありました。二十代で派遣スポーツ主事をしたこと、五十代で小学校の学級担任をしたことも良い思い出です。あつという間の三十八年間でした。

これまで大変お世話になり、お力添えをいただいた皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

継続は力なり

織田中学校長 橋谷和憲



校長としての楽しみは、子どもや先生達が元気に頑張っている姿

を見ることだと思います。そのためには一つを継続することが大切と思い、六年間一貫して続けてきたことがあります。毎月の集会で校訓について話すこと。職員会議では教育理念を話すこと。そして毎学期、保護者や生徒達に、頑張っている様子の写真をスライドショーで見せることです。それらを期待を込めて、感謝を込めて伝えること。以心伝心と言われるように、そうした心で伝えることが大切であると思います。

「人はやったことしかできないから何でもやれ。」新採用であった金津町吉崎小学校校長先生と酒を酌み交わさせて頂く度の口癖でした。あれから三十八年「継続は力なり」を信念にこれまで勤めることができました。諸先輩方の教えのお陰です。はじまりがあれば終わりがある。終わりを迎えるにあたり、皆々様に深く感謝致します。「継続は力なり」教職の仕事を継続してきて本当によかったです。ありがとうございました。

縁と運

武生第一中学校長 水谷善長



私は今年度末をもって退職いたしますが、これまで多くの縁と運に

恵まれ、とても幸せな教員人生を送ることができました。初任者として赴任した学校を最後に退職させていた、たくの、不思議な縁を感じます。新任当初は、四、五年お世話になったら故郷の勝山に帰ろうと考えておりましたが、旧武生市の女性と縁があり結婚し、三十七年間ここ越前市に住まわせていただいております。その間、交通事故で担任生徒を二人亡くしたり、県教育庁で英語教育の先輩を亡くしたりして、悲しく辛い経験もりましたが、部活動で全国に出場できたり英語教員の英国研修に参加させていただいたり幸運に恵まれ、健康を害することもなく教員生活を送ることができました。これも偏に、諸先輩方のご指導とご助言、同僚の協力、生徒の頑張り、そして家族の温かいサポートがあったからこそと心から感謝しております。加えて、私に何らかの運があつたのだと考えています。その時その時の立場で任されたことを責任をもってやり、全力を尽くす。そして助言や支援をいただいた時には心から感謝する。こういう人間

として当たり前のことをするところが幸運をもたらすのだと信じています。今後の人生もこの教訓を念頭に置き、縁と運を大切に生きていこうと思います。三十七年間、本当にお世話になりました。



舎も、五月には最後を迎えることである。昭和三十五年開校の本校は、同じ年生まれの私と同じ時間を過ごしてきた。開校時は最新建築として注目を集めたが、六十年経った今ではただの老朽校舎、思わず我が身を引き写し剥がれた壁をさすって感傷に浸りたくなる。するとそんな私を見下ろす私が叱る。そんなことして何になる、校舎は新しく生まれ変わって新たな歴史を重ねていくのだ。お前も心機一転し、お役に立てる場所で、動ける限り働き続けろ！ということ、築六十年の私だが、気持ちだけは新築で、六十一年目からを歩いて行くつもりである。

同和教育に出会って

高浜中学校長 村田 好史

達に対するせめてもの罪滅ぼしです。教員人生で二十代で出会った「同和教育」は、私の人生観と子ども達や人の見方を変えてくれました。荒れる学校の問題やいじめ、不登校、特別な支援を要する子どもなど、今日的な大きな課題となる前から、子ども達への関わり方を勉強させてもらったと思います。目の前の現象だけにとらわれず、その子の家庭や背景を丸ごと受け止めて教師は子どもに関わることの大切さを教えてもらいました。狭い意味での学力も大切です。しかし、子ども達の将来をどのように保障していくかを軸に据えた学校経営や教師の子ども達への関わりを忘れてはいけないと思います。

築六十年

角鹿中学校長 千葉 雅人



令和三年四月開校の小中一貫校づくりを担う機会を頂いた。校庭で

着々と進む新校舎建設を眺めながら、小中それぞれの日課や時程、教育計画等々、学校の「中身づくり」と、竣工後一週間で終えねばならない、統合される四校からの引越（搬入計画）策定に、三年越しで取り組んできた。ようやく目鼻が付いた今改めて思うことは、教諭、教頭そして校長として合計十二年を過ごしたこの校

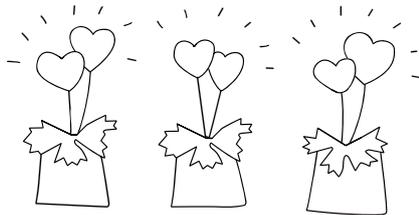


学習指導要領をじっくり

読み込んだのは、今から十二年前に指導主

事の職に就いたときでした。それまでは、勢いとそのときの感覚で授業をしていたように思います。そんな教師でしたが、子ども達と一緒に過ごした時間は今となっては私の財産です。子ども達に感謝すると同時に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

八年前から管理職になりましたが、私のような後悔をしないように、職員には話をしてきたつもりです。私と共に過ごした子ども



編集後記

コロナ禍の一年

令和二年二月二十七日、政府の新型コロナウイルス感染症対策本部の会合で安倍総理（当時）が、「全国全ての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校について、来週三月二日から春休みまで、臨時休業を行うよう要請します。」と発言。直後に美浜町の臨時校長会が招集されました。

職員には、「明日二十八日が最終日となるという認識で、すべての準備を終えるように。」という指示をして、臨時校長会に臨みました。

確認されたことは、休校措置に対応していくということ。ただ、翌日の二十八日で学期・学年を終了することの難しさが明らかとなり、二日（月）からの休業について協議されました。結論としては、三月三日（火）から休業に入ることになりました。教頭を通じてこのことを職員に伝えると、安堵の聲が上がったとのこと。

その後は、休業中の指導・課題・各家庭との連絡体制の準備等々、今まで誰も経験したことのない対応が求められました。また、生徒の健康と安全を守るには何をどのようにすればよいのかを考える日々が続きました。

四月七日には七都府県に緊急事態宣言が発出され、十六日には全国に拡大されました。休校措置は継続され、令和二年度の新学期は二か月遅れの六月となってしま

ました。

緊急事態宣言が解除となり、学校に生徒たちが戻ってきましたが、学校生活には多くの制限が必要となりました。三密を避けること・手洗いの励行・消毒が必須となり、生徒と教職員に様々な負担がかかることとなりました。

学習活動や給食、集会活動そして部活動等で多くの制限が発生しました。

数々の自粛によって新規感染者が減少し、制限は少しずつ緩和されました。しかし、全国的には感染者が少なくなることはなく、中教団の研究集会や中体連の夏季総合競技大会等も中止になってしまいました。延期されていた修学旅行、学校祭、合唱コンクール等々感染防止対策を講じたうえで何とか実施できないかと考えたものです。

今ここにきて、再び感染者が増えています。新型コロナウイルス感染症が終息するには、まだまだ時間がかかるのかもしれない。令和二年に経験したコロナウイルス感染症対策の実践を基に、子どもたちの健康と学ぶ権利を守るために、今以上の努力をすることが、私たちの責務だと感じます。

今年にはコロナ禍で見通しのない不安が多い一年でした。そのような中でも、県中学校長会の広報紙、「中学校長会の窓」が発刊できましたことを、大変うれしく思います。コロナ対応で大変お忙しい中、ご寄稿いただきました校長先生方、大変お世話になりました。ありがとうございました。

広報部